

委託業務実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 伊東国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

伊東市及びその周辺に在住する日本語を母語としない住民を対象とし、日本語の速やかな習得を図るとともに、その生活を支援する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月9日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武 茂 堀越卓子 曾我広子	運営委員会規定 受講者募集 日本語教室開催要 項の確認	文化庁委託事業採択確認 運営委員会の開催日等確認 講師登録(月1回ミーティング) 教材購入計画
8月1日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武 茂 堀越卓子 曾我広子 講師参加	検定指導要綱目標 教材購入計画 教師研修開催につ いて	出席生徒、出席率等確認 生徒学習進度状況 教材購入品目の確認、承認 研修項目、研修開催日等の決定 講師ミーティング
10月3日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武 茂 堀越卓子 曾我広子 講師参加	教室状況報告 担当教師と生徒の 確認と新編成 能力検定試験の受 験者確認	新規生徒紹介 生徒数増加に伴う教師、生徒の 担当新編成確認 検定受験者の重点指導項目確認 講師ミーティング
1月16日	協会事務所	水口進吾 鈴木健支 大武 茂 堀越卓子 曾我広子	教室状況報告 伊東市国際交流フ ェスタ参加	国際交流フェスタスピーチ参加 者確認 日本語教室ブースのテーマ、内 容検討及び決定 講師ミーティング

【写真】（講師参加の委員会会議。）



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 伊東国際交流協会 日本語教室
- ② 開催場所 伊東市松川町太田ビル 会議室
- ③ 学習目標 初級、中級、上級というように、生徒の日本語能力に応じて指導
原則的にマンツーマン方式にての授業、日本語の基本的文法を学習しながら日常会話程度のコミュニケーション能力の習得、さらに上級を目指すものに日本語能力検定試験の学習、合格を目指す。
- ④ 使用した教材・リソース
「みんなの日本語」 初級 I、II
「中級から始める日本語」
「上級の日本語」
「漢字マスター 3級漢字500」「 ” 2級漢字1000」
「 ” 1級漢字2000」
「日本語能力試験 対策項目整理」 各1級、2級、3級 他
- ⑤ 受講者の募集方法
地元ケーブルテレビ、コミュニティFM、新聞CM、協会会報、ちらし等



ケーブルテレビ出演生徒募集PR



FMいとうラジオによる生徒募集PR

⑥ 受講者の総数 49名 (延べ人数ではなく受講した人数)

国別内訳 中国 19、タイ 11、フィリピン 7、インドネシア 4、トルコ 2
ルーマニア 1、アメリカ 1、ロシア 1、イスラエル 1
パキスタン 1 イラン 1

⑦ 開催時間数及び回数 207時間 全138回

月曜教室 午前 42回 午後 15回

木曜教室 午前 42回 午後 39回

⑧ 日本語教室の具体的内容

別紙 伊東国際交流協会 日本語教室の日報を添付

⑨ 特徴的な授業風景 (2~3回分)



この写真は日本語教室の代表的光景です。このように生徒と先生は1:1のマンツウマンで行っており、原則として一人の生徒に対し、先生は二人で受け持ち、一人の先生に固定しないようにしています。一人の先生からの教え方に偏るのを避ける為です。本教室では現在先生の数が生徒数を上回っていますのでこのやり方が適しているようです。



この写真は2月26日に行われた伊東市国際交流フェスタにおいて、日本語教室の生徒が外国人スピーチを披露するにあたって、その下練習を教室内で先生、生徒を前にして、しているところです。この場において、スピーチの内容を先生たちが確認するとともに修正すべきところがあったら、そこを指摘して、本番においてより良いスピーチができるよう教室全員が協力して応援しているところです。



教室では教室内の授業だけではなく屋外に出かけて先生と生徒の実際の活動を通しての交流を図っているが、この写真はその中の活動の一環として年に1回バスによる課外授業に行った時のものです。参加人員は先生と生徒で24人余り、伊東市の隣の伊豆市、伊豆の国市などの農村、産業、名勝地などを回りました。写真の場所は富士山の展望で知られる葛城山の頂上で、そこでの記念写真です。



この写真は日本語指導の先生方が日本語教育の能力をより向上させる為に教師の資格を既に得ている先生から講習を受けているところです。この講習会は年に2回程度行われており、今回は中級クラスの生徒を教えるために、そのテキストを解説しながら教えるポイント、教え方を学びました。

⑩ 活用した日系人（日本語を母語としない）の名簿

氏名	母語（国籍）	来日年数	参加回数	当該教室での役割
ユリアナ ドロバンツ	ルーマニア語 （ルーマニア）	11年	1回	英語学習者の授業 通訳

⑪ 支援者の名簿（⑩以外）

No.	氏名	所属・身分	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
1	大沼美那子	主婦	日本語教師養成講座修了 日本語学校教師歴 9年	34	講師
2	大武 茂	定年退職者	日本語教師養成講座修了 海外日本語教師 4年	66	講師
3	堀越 卓子	主婦	日本語教師 元英語塾講師	31	講師
4	村上 佳世	主婦	日本語教師 元小学校教師	15	講師
5	曾我 広子	主婦	日本語教師 元中学校英語教師	68	講師
6	小西 恒男	定年退職者	日本語教師	6	講師
7	石田 寿子	主婦	日本語教師	8	講師
8	加藤 守康	定年退職者	日本語教師 元高校英語教師	9	講師
9	天野 尚則	定年退職者	日本語教師 元高校国語教師	22	講師
10	吉川 仲子	主婦	日本語教師 元JICA日本語教師	23	講師
11	川野 隆子	主婦	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	43	講師
12	吉居 富子	主婦	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	40	講師
13	福岡 悟子	主婦	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	50	講師

14	石田由美子	主婦	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	49	講師
15	鈴木 健一	定年退職者	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	21	講師
16	ユリアナ	ルーマニア語	日本語教師	1	講師
17	安田加代子	主婦	日本語教師 伊東国際交流協会 日本語講座修了	3	講師
18	羽生田 利雄	定年退職者	日本語教師	5	講師

4 事業に対する評価について

1 当初の学習目標の達成状況

- ① 受講者数： 49名
年間延べ受講者数 612名
- ② 開催教室回数： 138回
延べ教室時間数 207時間
- ③ 教師数、年間延べ教師数
教師数 18名
延べ出席数 612名
- ④ 日本語能力検定試験資格取得者 2名
N1受験者 3名の内 1名合格
N2受験者 1名 1名合格
N3受験者 1名 合格者なし

2 学習者の取得状況

- ① レベル別受講者数（受講者数：49名）
初級者 22名
中級者 24名
上級者 3名

3 日本語教室設置運営の効果、成果

教室運営の効果、成果を生徒の日本語能力別に分けて以下に記す。

- ① 初級クラス：初級クラスの生徒は日本人配偶者となって来日して日の浅い人、あるいは研修生として一時的に来日した人などがあげられる。国別には東南アジアあるいは中国の人が多いが、伊東市では最近では中東の人（イラン、トルコ等）も増えているようである。東日本大震災以来生徒数は一時的に減ったとはいえ、その後時間的経過と共にその数は伊東市においても回復してきており初級の生徒数も少ないとはいえない。このような初級の生

徒は教室での学習はもとより、少しでも多くの時間を学習に割いて自ら積極的に自習する事が必須となる。自習する為にはテキストを自分で読めなければならず、この意味からも、仮名を覚えることが第一の学習目標となる。前年度パソコンを使って仮名を習得する方法を模索中であると述べたが初級クラスではパソコンを使用している生徒は少なく、買える生徒も少ないから、その方法は一部の生徒にかぎられるようである。現在初級クラスの生徒に対してはまずは読めることを皮切りに、順次書いて行く事を教えている。

能力試験の実績としてはN3の受験者を1名出したが、合格までには至らなかった。この学習者はフィリピンの女性であったが、漢字が少し苦手の生徒であった。

- ② 中級クラス：本年度の中級学習者は小学生クラスの子供を持つフィリピン人配偶者及び中国人研修生等が主な生徒であった。フィリピン人配偶者はそれなりに日本での生活も長く地域における生活、日本の生活習慣、文化にも相当慣れてはいるが、子供が大きくなるにつれて子供とのコミュニケーション、学校との連絡等において意志の疎通に若干の支障をきたすことからさらに日本語能力を高めようと来られる人が多い。このような生徒については漢字のボキャブラリーを増やし、より日本人に近い言語生活ができるようにという事を学習目標にしている。中国人研修生では滞在が一時的な場合が多いが、その限られた時間の内にできるだけ日本の文化、習慣を知ってもらう事を目標に教材を選び、また上級を目指した日本語教育を行っている。

能力試験の実績としてはN2の受験者1名の、合格得た。

- ③ 上級クラス：本年度は上級クラスの生徒を3名得たが全て伊東市内で働く中国人研修生である。日本語教室に通う中国人研修生は全部で5名おり既に能力試験N2を取得しているが、この中でN1を目指すものを上級クラスの生徒として、学習目標もN1合格を目標に教える生徒たちである。テキストは「上級の日本語」を使用し、時に新聞、小説などを通して、日本の文化、習慣はもちろんさらに時事問題なども交えて、日本語を通して本格的なコミュニケーションを目指そうとするものである。

能力試験の実績は3名受験のうち1名の合格者を得た。

4 地域の関係者との連携による効果、成果等

- 1) 伊東日本語教室は伊東国際交流協会の中で活動を行っているが、交流協会の活動、イベントにも積極的に参加して、生徒たちの教室以外での実践を通じた日本語教育も行っている。その主なものは以下の通りである。

- ① 伊東温泉按摩祭：三浦按摩ゆかりの地として毎年8月に行われる伊東市の主要な祭であ

り、昼は市内パレード、夜は広場において各種出し物がある。日本語教室では教師、生徒共々この行事に参加している。

- ② 伊東温泉花笠踊り：毎年秋に行われる市内行事で伊東市内の企業はじめ各種団体がチームを組み、チーム一体となって花笠踊りのパレードを行うものである。交流協会でもチームを組み練習から本番まで生徒、教師及び協会員が参加して踊りを楽しんでいる。
- ③ 県内他国際交流協会との意見交換会：昨年は沼津市の国際交流協会を訪ね沼津市の国際姉妹都市である中国の都市、またその交流状況をなどを伊東の場合と比較しながら意見を交換したが、本年は裾野市の海外交流協会を訪問した。裾野市海外交流協会の主な事業は英語教室、留学交換、文化交流などという事であった。留学交換については非常に積極的で伊東市が高校生2名に対し、裾野市では小学生から高校生まで行っており、またその期間も長いものは1年留学までであるという事で、伊東と比べその事業の大きなことについて参考にしなければと考えさせれ、有意義な交流であった。
- ④ 課外授業：毎年秋の終わり近く伊東市近郊の名所、あるいは自然の風物を訪ねて課外授業を行っているが、今年は伊東市の隣りである伊豆市、及び伊豆の国市まで足をのばし、伊豆の名物であるワサビの里、及び静岡の誇る富士山を展望できる場所まで出かけ、自然を通じた日本について知る機会を作った。ふだん交流できない先生、生徒の交わりを通してより深い教室のつながりができた。
- ⑤ 伊東市国際交流フェスタ：毎年市役所の1階ロビーを借りて行う恒例のイベントであるが、日本語教室が独立したブースとして出場するのは本年が2回目である。日本語教室のPRを主に、一般市民に対する日本語への関心を深めてもらう目的で漢字クイズの出題、あるいはちょっと気になる日本語の話し方についてのプリント配布などを行った。またステージにおける日本語教室生徒による日本語スピーチには本年は3人の中国人生徒にそれぞれ日本の印象などについて話してもらった。

2) 静岡県国際交流協会主催の講習会等への参加：

- ① 「おしゃべりを通して日本語能力UP」講習会参加：静岡県国際交流協会では逐次日本語教育に関する啓蒙活動を行っているが、この講習会もその活動の一つで2ヶ月にわたって計5回の講義を通してボランティア日本語教師の能力のスキルアップを図るものであった。伊東日本語教室からは3名の教師がこの講習に参加し修了証を交付された。

- ② 「2012年静岡県ボランティアセミナー」の参加：毎年年のはじめに同じく県の交流協会によって行われるもので、午前に行われる第1部では日本語教育についてのメイン講師の講話が行われ、午後は分科会に分かれてワーキング活動を行うことになっている。本年は午前の講話では日本の地方においても外国人が多くなっている状況、それに対する日本人の正しい接し方等についての話があり、午後には日本語教育現場での実際的な活動実習がもたれた。伊東日本語教室からは4人の教師が参加した。

5 改善点、今後の課題について

1) 現状の課題とその対策

- ① 生徒数の確保・維持：伊東日本語教室における昨年と今年の生徒数の増減状況を見てみると昨年は受講者数81名に対し、本年は49名であった。これは東日本大震災とそれに続く原発事故により、一時的に来ていた外国人が大挙して帰国してしまったことと、その後しばらく日本に来る事が控えられたためとみることができる。もう一つ生徒数が大幅に減少した原因として、伊東市という地域性によるものと考えられる。伊東市の外国人の少なさは労働者として来日する外国人が多い県内の他都市から比べると、はるかに少なく、最多の都市の1%程度というのが2008年度の実績数である。このようなことから伊東日本語教室では生徒の確保、その数の維持というのも一つの課題となって来ている。そのために日本語教室の広報活動をさらに進め、教室案内の名刺型カードを作成し、町で見かけた外国人に渡したり、研修生を教室に向かわせるために、市内の企業等の訪問をさらに多くしようと試みている。
- ② ボランティア教師の能力向上：ボランティア教師は定年退職者及び主婦がその多数を占めているが、日本語教育については専門でない人が多い。そのため教室では機会ある毎に講習会を開いてきた。本年については中級の学習者も多くなっていることから「中級から学ぶ日本語」のテキストにそって、その解説、教え方のポイント等を教師資格者により講習会をもった。来年度は前々回初級Ⅰ（「みんなの日本語初級Ⅰ」の解説、教え方のポイント）まで修了した学習会を初級Ⅱまで行い、ボランティア教師の教育能力アップを図ろうとしている。

2) 今後の活動予定と展望

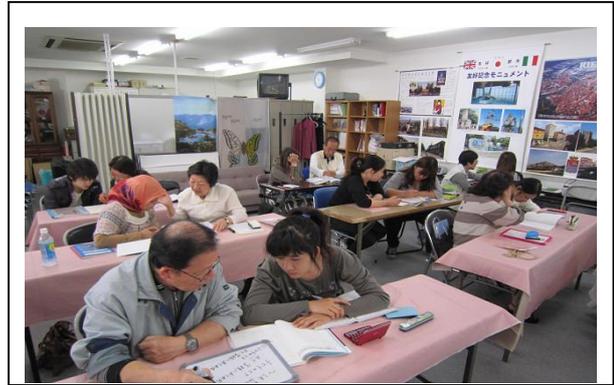
- ① 教室内活動の充実：昨年秋から生徒の教室に来られる時間に積極的に対応していこうという事で月曜の午後も教室を開くようにしてきたが、この時間の生徒数も増えてきており、今後も月曜2回、木曜2回のコースで勧めようとしている。また教室を語学教育だ

けに固定しないで、生活援助、交流の場としても活用しようと考え、月に一回生徒、教師全員でのお話会を持とうと決定した。これもまた生徒数の増加とその維持に効果ある事を期待している。

- ② 日本語教室の教室外での展開：従来日本語教室は協会事務所内での活動に留まっていたが、研修生などは教室開催の時間に合わせる事が難しく、出席できない場合も少なくなかった。これからは研修先の希望に応じて週の決まった時間に先方に出向いて日本語教室を開こうと現在その実施を検討している。その実施においては教師側また生徒の研修先企業の双方の協力が不可欠であるので双方の意向を充分にくみながらぜひ実現に至らせたいと願っている。



授業風景



授業風景



授業風景



授業風景



受講生の自己紹介



新しい受講者と講師



生徒の日本語による出身国の説明



帰国の女生徒（中央）お別れ会



課外授業は日本語課外体験



講師能力アップ学習会



地域イベントへ参加花笠踊り



花笠踊り打上懇親会



花笠踊り懇親会



交流フェスタ 日本語教室ブース

交流フェスタ・中国人生徒日本文化体験



交流フェスタ 日本語による生徒発表